



老人性難聴が疑われるとき

- 相手の声は聞こえるが、何を言っているかわからない
- 話しかけられても気づかないことが多い
- 早口で話されると聞き取れない
- 車の音や警報音などに気づかない
- 特に耳の病気を患っていない

③ 蝸牛に栄養分を運んでいる血管に障害が現われる。④ 蝸牛を支える組織が衰え、音の伝達が悪くなる。

原因がひとつの場合もありますし、いくつかの原因が重なって耳が聞こえにくくなる場合もあります。また音は聞こえているものの、相手が何をしゃべっているのか理解できないというのも老人性難聴の特徴です。相手が早口でしゃべっている時は、特に聞き取りにくいものです。ご質問の方がお孫さんの言葉をうまく聞き取れないというのは、まさにこの症状にあてはまります。

3 補聴器と上手につきあうために

難聴が老化現象による場合は治療することができないので、補聴器を使って耳の聞こえを補います。

補聴器は音が大きく聞こえるための機械なので、当然雑音も大きくひろってしまいます。そのため、人によって聞こえ方の満足度には違いがあるのも事実です。老化のせいで脳への伝達そのものが悪くなっているわけですから、補聴器を使っても聞こえ方には限界があります。補聴器さえつければ、若い頃のようによく聞こえるようになる」と期待しすぎない方がよい

かもしれません。また、家族など周囲の人もそのあたりをよく理解して、高齢の方の顔を見ながらゆっくり、はつきりと話しかけてほしいと思います。

とはいえ、聞こえが悪くて日常生活に不自由を感じている人には大きな助けとなる補聴器。決して安い買い物ではないので、自分によく合った補聴器を選びたいものです。耳鼻科で耳の状態をよく調べてもらい、医師から正しいアドバイスを受けることが大切です。難聴の度合いによっては、補聴器を買う際の助成制度がありますので、併せて相談してみましょう。